
plasticlover

祀歌スピカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

p l a s t i c l o v e r

【Nコード】

N 4 4 7 3 E

【作者名】

祀歌スピカ

【あらすじ】

ノイズだけの世界から少女・プラチナの声に引き寄せられた”ボク”。世界の果てまで歌を伝えるために旅をしているという、プラチナとその主人・マエストロ。突然の出会いはい偶然か、それとも？

プロローグ：ノイズ

ざああ・・・
ざああ・・・

聞こえてくるのは、ひたすらにそのノイズだけ。

ボクはその前もその後もなく、ただそこにたゆたっていただけ。

目を開けても、ひたすらなブルー。

いつからそこにいたかもわからない。

浮いているのか、飛んでいるのか・・・それすら。

ざああ・・・
ざああ・・・

そう、このセカイは、ノイズに包まれたまま、どこに行くこともないと思っていた。

「あつ、気づきましたよ、マエストロ」

ざああ・・・
ざああ・・・

相変わらずのノイズの中に、鈴のようなかわいらしい声を捉えたのがボクの目覚め。

ざああ・・・

「マエストロ、マエストロってば！」

ざああ・・・

おかしいな。

このセカイには、耳障りなああの音以外に伝わってくるものなんて、あつたのか。

ブルーがゆつくりとその輪郭を形作る。

少女だ。銀色を美しく結った髪が、その声のまましゃらんと揺れる。柔らかく無垢なくちびるの両端が、優しく持ち上がる。

ボクは右手で彼女の口元を触れた。少女はちよつと驚いた顔をする。ボクも自分の行動に驚く。右手？右手なんてあつたのか、ボクに。少女は触れたボクの手を小さな手で包みこむと、ボクの瞳を見て、言った。

「だいじょうぶですか？」

その言葉に、途端に重くなった自分のカラダを感じる。

「あつ、私・・・私は、プラチナ。ノクターン・プラチナ。あなたは・・・」

「・・・」

「えーっと、だいじょうぶですか？」

綺麗な眉をひそめて再度声をかけるプラチナと名乗る少女。ノイズしか知らないボクには、返事することが出来ない。

「行き倒れにいちいちかまうな、プラチナ」

『音』の出し方に戸惑っていると、上空から突き放すような低い声が少女に、そしてボクに浴びせられた。

プラチナの視線がボクからその『男』に向かう。

「マエストロ、そういうのは冷たいと思うわ」

くちびるをつんと尖らせて言う。

マエストロと呼ばれた男はふーっと深いため息について、彼女の視線に座り込んだ。

そうして、彼女と同じようにボクを覗き込んで、その言葉^{めいれい}を発したのだ。

「・・・『起きろ』」

不思議と重かった自分のカラダが、ふと当たり前のように感じた。

彼女に触れた右手を、柔らかい白い砂の上に。

砂。

起き上がる。頭が、少し痛い。目が眩む。

今まで見ていたブルーは、『空』？

砂、そうだ、ここは。

「起き上がれますか？」

プラチナの補助で、ボクの上半身は支えられた。ぶんぶん頭を振ると、視界のブルーは既に無かった。

代わりに足元に、穏やかな波が繰り返し押し寄せていた。

ざああ・・・

「ざああ・・・」

「よかった」

銀色の瞳を細めたプラチナは嬉しそうだ。

「あなたのお名前は？」

「・・・・・・・・」

やはり出ない『音』に、思わず喉元に手を当てた。
そうして、呆れ顔のマエストロから二度目の言葉^{めいれい}を聞いた。

「・・・・『名前は？』」

「あ・・・っ？」

『音』。のちにそれが『声』だということに気づいた。

「すてきなお声が出るじゃないですか！」

プラチナが嬉しそうにボクの手を取った。

「　　ノイズ。そう、バルカローレ・ノイズ」

それがボクの名前だ。

気づくと、繰り返し続いていたあのノイズは消えていた。

代わりに、心地よい波音が耳元を掠めてゆく。

自分の力で立ちあがると、プラチナはボクよりも少し小さかった。

見上げるようにボクの瞳を覗き込んで、また笑う。そのしぐさすら、涼やかな音を奏でるようだ。

「ノイズ。そう、良かったわ、だいじょうぶそうね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4473e/>

plasticlover

2011年1月3日13時04分発行